

150周年記念式典②

式典当日、子どもたちとお客様方には記念品を渡しました。お客様用には、式の中でも紹介した記念品を入れた紙袋に、子どもたちからのメッセージを貼り付けてお渡ししました。

また、記念の和菓子は、6年1組が総合の学習を通して、和菓子屋さんにご協力いただいてデザインし作り上げました。この和菓子屋さんは釜利谷東小学校そばにある「たんの和菓子店」です。以前には学校の近くに別の名前でお店を構えていらしたとのことで、6年1組の願いを快く承諾してくださいました。

「桜亀（おうき）」と名付けられた記念の和菓子は、当日の児童下校後、6年1組児童が式典にいらしたお客様向けに販売しました。150周年記念運動会のソーラン節でお披露目した、記念のはっぴを着て行いました。100個用意して、10分ほどで完売しました。

式典当日の9日と翌10日、たんの和菓子店でも「桜亀」を販売してくださいました。両日も閉店時間になる前に完売したとのこと。大人気だったようです。見た目の美しさもさることながら、ほっとするようなやさしい甘さでさらりとした口当たり、大変おいしいお菓子でした。



児童の式典と大人の式典とで、私は2回話をしました。

児童に向けては、12月学校だよりに書いたような内容を話しました。

「みなさんは何のために学ぶのか考えたことはありますか。150年前の地域の方は、子どもたちが学問によって身を立てて、世の中をつかっていけるように学びの場をつくろうと考えて、学校のもとをつくったのです。世の中には平和や人権、環境など多くの問題がありますが、それらを自分でとらえて考え、他の人と協力し合って行動を起こしていくには、学問によって力を身に付けることが大切になります。ぜひ、学んだことを生かして世の中をつくる人になってください。そして釜利谷小学校150周年のことを懐かしく思い出してください。」

大人の式典では、子どもたちに向けた話に加え、地域の方々が学校を支え続けてくださって150周年を迎えられるのだということ、「大正から昭和初期、六浦小学校の分教場の扱いとなっても、地域の方が釜利谷の学びの場を存続させていたこと」「戦後まもなく、校舎を建てる場所をつくるために地域・保護者の方々が手掘りで裏山を削ったこと（7月学校だより）」「昭和の宅地開発が進んだ時期、子どもたちの遊び場として裏山の存続を図るため、PTAの方々が市長に嘆願書を出したこと（10月学校だより）」等をひいて紹介し、地域・保護者の皆様のお力があってこそ150年間学校が持続してきたのであり、160年、170年と続くにあたりご支援ご協力が欠かせません、今後もよろしく願いいたします、という話をしました。150年目の釜利谷小学校第28代校長として、地域の方々の学校への思いを、式典にご参加くださった皆様とともに振り返り、未来に伝える語り部のつもりで話しました。